

いのちと健康

ニュース NO. 94

1995年 8月15日
愛知働くもののいのちと健康を守るセンター
名古屋市中熱田区沢下町9番3号
労働会館本館3F TEL.FAX 052-883-6966
編集発行責任者 中原 東四郎

〔愛知働くものの健康センター〕

『第5回 総会』開催される

7/29、労働会館本館で

結成4周年を迎えた『愛知働くもののいのちと健康を守るセンター』の『第5回 総会』が、7/29、午後1時30分から労働会館本館で開催されました。

参加は、加盟団体代表や、安全衛生担当者・安全衛生委員をやっている方など、25団体、49名が出席しました。

総会は、中原副理事長の開会挨拶のあと、神藤 理事の議長のもとに議事がすすめられました。

最初に山田理事長の挨拶がされ「いのちと健康を守る運動」の全国的な広がり、と今日までの成果について話され、愛知の運動が高く評価されていると報告されました。

次いで佐々木事務局長から、①第4年次の事業活動報告②決算報告（近藤監事から監査報告）③第5年次事業活動計画④第5年次予算⑤申し合わせ事項変更などを提案審議しました。

各団体代表から活発な発言がされ、活動交流がされました。

第5年次は、さらにセンター活動を充実していくことを確認して議案は一括承認されました。

✓次いで役員理事の選出をお行ない総会を終了しました。

〔新役員名簿〕アイウエオ順

理事長 山田信也（職場の健康問題研究会）

副理事長 加藤瑠美子（愛労連副議長）

副理事長 水野幹男（自由法曹団）

副理事長 中原東四郎（愛労連顧問）

事務局長 佐々木昭三（職場の健康問題研究会）

事務局次長 永井和彦（愛労連幹事）

理 事 石井康弘（全損保）

〃 大野美鈴（愛高教）

〃 樽松佐一（名勤生協労組）

〃 佐久間信司（自由法曹団）

〃 神藤常晴（国労県支部）

〃 鈴木弘之（医労連）

〃 田淵哲雄（民医連）

〃 吉里政治（愛商連）

〃 平田真治（名高教）

〃 宮崎修一（職場の健康問題研究会）

〃 山崎富紀雄（名南労連）

〃 吉川正春（名水労）

〃 駒田富枝（自治労連）

〃 （新聞労連）

〃 （建設一般）

監 事 近藤直太（健康と家庭を守る会）

第4年次の事業活動報告

1. 労基法・労安法を基礎とした職場の安全衛生活動と事業活動

- 計画的、組織的にすすめている労働組合の優れた経験を全体のものとするため努力をしてきました。
- 愛高教をはじめ、名勤生協労組、みかわ市民生協労組、全港湾で職場の安全衛生活動が強化されています。
- 第4回労働安全衛生学習交流集会には13労組、17名が参加し、先進組合の経験を学びあいました。
- 民間大企業の職場でも、活動家によって相談活動、夜勤規制、過密労働規制の運動が広がっています。

2. 職場の労働安全衛生活動の学習・教育活動と活動家養成

- 「第6回いのちと健康を守る学校」を13団体、53名の参加で開催しました。新たな企画として医師と働く人との対話学習を田淵哲雄医師の協力で行ないました。
- 参加団体での学習会には、山田理事長佐々木事務局長をはじめ弁護士、医師医学者が協力しました。
- 「第4期いのちと健康大学」は、時期企画、内容について理事会で再検討してきました。名古屋地域のほか尾張地域、西三河地域などで開催し、内容時期は関係団体と協議します。

3. 夜勤規制と過密労働規制のとりくみ

- 夜勤規制のとりくみは、関係労働者・労働組合で3回ほど、実態と問題点、要求・政策、職場・産別の運動、愛知と全国の運動にむけて討論と協議をしてきました。↗

- ✓●過密労働規制のとりくみは、「現代労働負担研究会」と共同してすすめ、今後も専門家の協力を得ながらすすめます。

4. 相談活動、110番活動の協力

- 職場の安全衛生活動、健康問題、夜勤交替制、過労死、労災・公務災害などの相談活動が電話相談も含めて広がりました。
- 過労死弁護団の過労死110番活動や、家族の会の相談活動への協力もすすめてきました。

5. 労働安全衛生・健康問題調査

- 建設一般からの依頼で、低温の室内での冷凍・冷蔵食品の品種分け作業に従事している女性労働者の健康アンケート調査を山田・小野両先生が行ないました。
- 労働安全衛生実施調査は、今後愛労連いのちと健康対策委員会と参加団体と共同ですすめます。

6. 過労死・労災・公務災害・職業病の認定闘争への支援・協力

- 山内過労死裁判は郵産労を中心とした支援する会で署名をあつめました。
(個人18,656、団体852)
- 大同特殊鋼・松永・篠原認定闘争は、再審査請求と審査請求の段階。
- 全医労・恵那病院支部の看護婦さんの公務災害認定闘争。
- 「家族の会」関係の労災裁判支援。
 - * 故渡辺錠平氏労災裁判 (最高裁)
 - * 故渡辺一夫氏労災裁判 (名地裁)
 - * 故森下六男氏労災裁判 (岐阜地裁)
 - * 故松井靖夫氏労災裁判 (名地裁)
 - * 故柏木恒雄氏労災裁判 (名地裁)
 - * 故鈴木龍雄氏労災裁判 (名地裁)

(裏面につづく)

(表面よりつづく)

7. いのちと健康ニュース

- 月2回の定期発行を定着させ NO.93まで発行してきました。センターの活動やとりくみ、参加団体の労働安全衛生活動、全国のいのちと健康を守るとりくみ、全労連のとりくみなどの情報、労災職業病認定・裁判闘争など紙面に反映してきました。

8. 専門家の協力・共同と研究会活動

- 「過労死をなくす集い」に講師・水野弁護士、「いのちと健康学校」に講師田淵医師、「スエーデンの報告と健康調査」に小野先生、相談活動・夜勤規制の問題、健康調査に山田先生などと専門性を生かして協力していただいています。

9. 各地方センター・団体との協力共同

- 「第3回地方でのいのちと健康を守るとりくみ交流集会」(東京)には18団体、24名が参加し地域での経験と交流を深めました。

10. 新事務所移転・事務所独立と財政確立
新規加入の拡大

- 新事務所での活動を支えるために財政確立が急務になっています。会費の引き上げ協力と、新規加入の促進(昨年12団体が加入)をとりくみました。

11. 国際連帯・交流・国際活動

- スエーデン研究者のエルガードさんとの交流。小野先生のスエーデン帰国報告。「国際シンポ」に山田理事長、佐々木事務局長が参加。
- 山田理事長が中国、チエコでの国際学会に参加され、研究者や労働組合と交流を深めました。

(総会議案の「事業報告」から抜粋)

第4年度決算('94.7.1～'95.6.30)

収 入		
会 費	2,089,000	51団体
前年度未納金	39,000	
事業収入	56,000	
雑収入	116,210	かバ
借入金	310,000	出資会計より
計	2,610,210	
支 出		
事務所維持費	721,421	新・旧
行動費	600,000	
通信費	629,360	郵送、TEL
ニュース作成	111,240	紙代
資料費	119,892	
事務費	173,040	
活動費	98,000	
前年度赤字分	148,233	
計	2,601,186	
次年度へ繰越	9,024	

第5年度予算（'95.7.1 ～ '96.6.30）

第5年次の事業活動計画（抜粋）

収 入		
会 費	2,610,000	84団体
前年度未納金	196,000	9団体
事業収入	60,000	
雑収入	30,976	
繰越金	9,024	
計	2,906,000	
支 出		
事務所維持費	1,030,400	
行動費	600,000	
通信費	648,000	
ニュース作成	120,000	
資料費	120,000	
事務費	180,000	
活動費	100,000	
借入返却金	100,000	出資会計
予備費	7,600	
計	2,906,000	

- センター参加団体は、安全衛生活動の重点と計画をもつこと。
- 職場の安全衛生活動の担い手・活動家の養成・育成の計画をもつこと。
- 第5回労働安全衛生学習交流集会を10/14(土)～15(日)、1泊2日100名規模で行ないます。
- 「第4期いのちと健康大学」を名古屋地域のほか尾張地域、西三河地域などで開催します。内容・時期は関係団体と協議します。
- 「第7回 いのちと健康を守る学校」を今までの修了生と参加団体の意見を集約して企画します。
- 夜勤規制のとりくみは共同したとりくみを関係団体と協議してすすめます。
- 過重・過密労働化する労働の規制のとりくみは、実態の解明と法規制を「快適職場指針」「腰痛指針」を活用してすすめます。
- 相談活動を愛労連や関係団体と共同して行ないます。
- 労働組合の労働安全衛生アンケート調査は、愛労連いのちと健康対策委員会と参加団体と共同して行ないます。
- 山内過労死裁判（最高裁）、大同特殊鋼労災認定闘争、全医労・恵那病院支部公務災害認定闘争など支援協力します。
- 「家族の会」関係の労災裁判の支援協力をすすめていきます。
- 「いのちと健康ニュース」はひきつづき発行していきます。
- センターの活動を紹介し、加入をよびかけるリーフレットを作成します。
- 「第4回地方でのいのちと健康を守るとりくみの交流集会」を関係団体と協議して開催します。
- 安全衛生や健康問題での国際交流や情報交換をすすめていきます。